

藤沢宿における歴史と今後のまちづくり方策

10108138 平野拓人

研究背景・目的

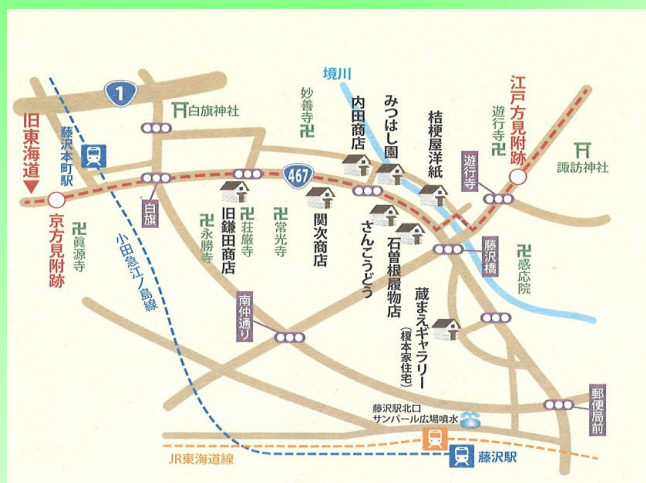
現在、都市部への若年層の人材流失が深刻化しており地方の街全体が活気を失っている。
街全体の活気を取り戻すために地元住人の「まちおこし」活動が鍵を握っている。
本研究では藤沢宿のまちおこし団体の「藤沢宿まちそだて隊」の地域振興を目的とした活動に密着し、藤沢宿の今後を調査する。

藤沢宿について



藤沢宿（歌川広重『東海道五十三次』より）

- 現在の神奈川県藤沢市に位置し、藤沢市発祥の地である
- 現在の藤沢本町に位置している
- 東海道五十三次の6番目の宿場であった。
- 江戸時代には小田原城と江戸城をつなぐ小田原街道で参勤交代の際の宿や人馬の中継地点として栄えた
- 近代以降には周辺地域とともに藤沢町を成し、その中心的機能を備え、行政・商業・文化の中心地域として栄えた



藤沢宿の現状

藤沢宿エリアは藤沢の中心地として長きにわたり発展を続けてきたが、戦後になると市役所が現在の藤沢駅の北口に移転し、駅前開発などにより、業務・商業の中心は藤沢駅周辺に移っていった。

その結果、現在は賑わいが失われている。

そこで地元住民が主体となり「藤沢宿まちそだて隊」を結成する。



藤沢宿のシンボルマーク



藤沢宿まつり

まちづくり隊の活動

- 藤沢宿まつり
- マッピングパーティー
- 東海道シンポジウム
- 浮世絵トランスボックスの設置

まちづくり隊の課題・問題

- 藤沢市の補助金が主な活動費であったが、本年度より補助金の打ち切りが決定し、活動費の確保が死活問題となっている

